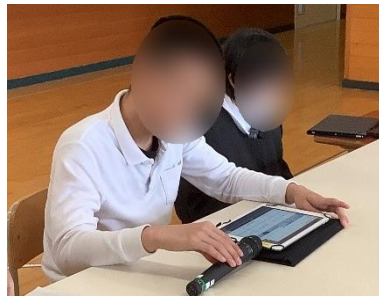


教材・支援機器活用実践事例【ICT】

主体的に活動に向かうことができるようにするための ICT 活用 「集会における拡大代替コミュニケーションの活用」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・中学部 2 年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・通常学級所属、学習進度は小学校低学年程度、発語は喃語程度。 ・全ての学習において、表出場で発語の代替手段が必要となる。 ・端末の操作に習熟しており、簡単な文を入力することができる。 ・平仮名を手のひらに書いて、簡単な筆談をする習慣がある。
授業について (教材・教具を 使用した授業 や指導場面)	教科名等	学級活動・生徒会活動
	単元(題材)名	単元名「新入生歓迎会」
	単元(題材)の概要	生徒会役員で、中学部の新入生歓迎会を運営する。 対象生徒は司会を担当し、次第のとおり活動を知らせる。 会の進行にふさわしい丁寧な言葉づかいで、司会文章を作成する。
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	GIGA 配備の iPad、読み上げアプリ、ワイヤレスマイク 式次第に従って司会の言葉を作成し、読み上げアプリに入力する。 会では場面に合わせた言葉をタッチして音声出力し、マイクで拾うことで司会進行を行う。(AAC：拡大代替コミュニケーション)  
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 自ら操作する代替コミュニケーションの手段を持つことにより、主体的に活動に向かうことができるようにする。 〈工夫点〉 ・学習場面ごとに言葉のフォルダを作成し、よく使う言葉をまとめて管理できるようにした。 ・言葉カードを単語と文章のテンプレートに分け、状況に応じて使い分けができるようにした。 ・新出語句や固有名詞を読み上げアプリに登録することで、何度も言葉に触れ、覚えることができるようにした。 
	材料・作成方法等	タブレット端末、読み上げアプリ（かわりに喋る）
子どもの変容や評価		・表現場面で自ら、読み上げアプリをくださいと要求してくる。 ・作業学習や朝の会など、他の場面でも代替手段を使用している。 ・読み上げアプリと筆談等の既習の表出手段を組み合わせ、相手に対して詳しく伝えようとするところがある。 ・気分の高揚等で筆記による学習のまとめが難しい場合、読み上げアプリを使用して反省を行っている。